

台湾での茶ビジネスの現状と課題

信頼性確保のための偽装対策や高付加価値化の取り組み

日大生産工(院) ○張佳翎

日大生産工 五十部誠一郎

1 はじめに

台湾の地理と気候は茶の植栽に最適であり、様々な高品質の茶が生産されている。特にいくつかの有名産地があり、その産地での茶の製品が増加しているが、同時にこれらの原料偽装も大きな課題となっている。消費者の信頼性向上やブランドの定着のためにも産地認証システムの確立とそのシステムを利用して偽装などのない高品質の製品や新たな高付加価値化の商品などの開発が求められる。本発表では台湾での現状のお茶ビジネスや有名産地のお茶の偽装防止のための取り組みなどの現状と課題を明らかにする。

2 研究方法

調査方法として、現在の台湾での茶葉産業での生産状況を分析するとともに、台湾及び関係する海外でのお茶の品質に関する課題を調査した。その結果から台湾からの東南アジアへの輸出入の茶葉では農薬残量問題が多く起こっていることが明らかになり、このままでは、お茶を購入してきた消費者の、お茶の品質に対する不信感が高まっており、この不信感の払しょく、信頼性回復のために、お茶の品質管理を強化し、高品質のお茶、さらに高付加価値のお茶製品やお茶ビジネスを行っていくための課題を明らかにし、偽装対策などについても提案する。

3 茶葉産業状況

(1) 世界の茶葉産業現状

お茶は主に世界で一つという飲み物である。世界茶生産量の統計による、2007年に世界生産量は350万トンを超す茶葉が生産され、内

訳は紅茶約246万トン70パーセントを占め、緑茶は約83万トン24パーセントであり、その他の種類（幾つかの発酵茶を含んでいます。）は約21万トン（6パーセント）である。世界の茶市場は拡大しており、いずれも生産量とか一人当たりの平均消費量についても、増加している。図1によると、この三年間を一人あたりの消費量にとりしては平均消費量に1.725グラムである。

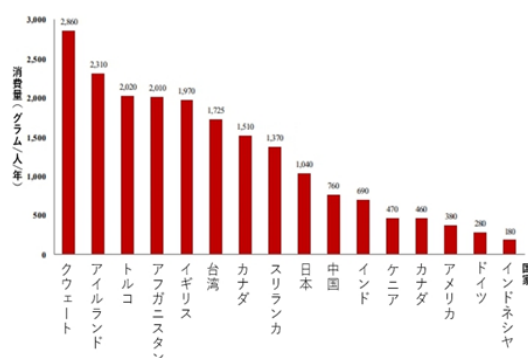


図1 主な国の茶葉年間平均消費量
(2008～2010年調査)

(出典) 行政院農委會 近十年全球茶葉産銷概況



図2. 台湾茶葉年平均消費量の変化
(2001年から2010年)

(出典) 行政院農委會 近十年全球茶葉産銷概況

Current status and issues of tea business in Taiwan
Measures to counterfeit and secure high added value for secure reliability

Chia ling CHANG and Seiichiro ISOBE

さらに図2によると、2001年から2010年まで、一人あたりの消費量は1459gから1725gに266グラムを上昇した。

（2）台湾茶葉生産量

台湾の茶葉は 1980 年より輸出をしているが、人手不足とか人件費の増加によって、生産コストが引き上がって、輸出の場合はなかなか競争力が強くができないから、国内での消費に重点が置かれている。また台湾の茶葉生産技術が上がっており、品質もちゃんと区分されることで、地域によってそれぞれのブランドを確立している一方、廉価な茶葉は別途一般原料として流通している。2002 年からは台湾は国際貿易組織に加入したため、様々な国の茶葉を自由な輸入ができるようになったが中国から輸入した低湿な茶葉によって、国内生産が脅かされ、さらに全体のお茶の品質も悪化していった。

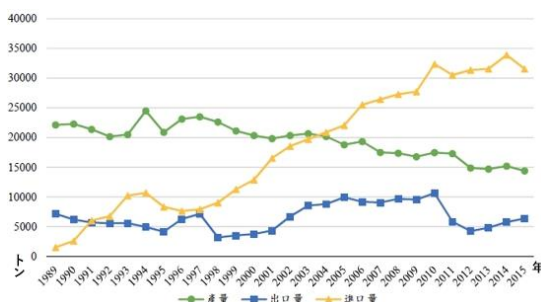


図 3. 台湾での茶葉生産量、輸入量と輸出量 (1989年～2015年) (出典) 農委會統計資料庫

4. 飲料業界の概要

台湾のカフェなど、お茶を含めて飲料を提供する店は年々増加しており、扱う飲料の種類も多いし、お茶自身の種類も多くなっている。その状況において飲料業界のお茶の需給が増えることで、消費者として商品の安全、衛生、品質及び産地にも注意を払うようになっており、その中で偽装対策が重要である。



図 4. 飲料業界の成長量 (2010 年～2015 年) (出典) 經濟部統計處

4. 偽装対策について

台湾の茶葉生産地での産地認証の取り組みは2012年8件 (図5) であったが、偽装対策の活動の中で、2016年には13件に増加している。これらの偽装対策やお茶自身の品質管理のシステムを導入することで、お茶の信頼性の維持の取り組みが増えている。さらにお茶のビジネスがグローバル化して、日本の抹茶の多角的な利用による高付加価値化の取り組みも参考に、台湾でのカフェで新規お茶商品や逆に台湾フードの日本への進出に関連して台湾のお茶を日本での商品かなどによる高付加価値化の動きもある。

5. まとめ

本研究では、台湾でのお茶ビジネスの現状を把握して、その結果からより優れた品質マネジメントの導入性を確認した。今後の発展については、日本のお茶文化の融合なども含めて将来のビジネスの提案を進めていく予定である。



図 5. 台湾茶葉の産地認証マーク (2012年)

「参考文献」

- 1.台湾行政院農業委員會全球資訊網-台灣茶葉生産現況與輔導措施
<https://www.coa.gov.tw/ws.php?id=19245&print=Y>
- 2.台湾優質茶業銷資訊網
<http://teaquality.ttes.gov.tw/chhtml/content.asp?cid=1>
- 3.中華經濟研究院 WTO及RTA中心
「我國茶葉在TPP與RCEP國家中有沒有潛在出口市場？關稅貿易障礙的觀點」
<http://web.wtcenter.org.tw/Page.aspx?pid=287658&nid=73>
4. 台灣經濟部統計處-飲料店業概況
https://www.moea.gov.tw/mns/dos/bulletin/Bulletin.aspx?kind=9&html=1&menu_id=18808&bulletin_id=2934
5. 日台交流 台湾新聞 農業委員会が優良台湾茶産地証明マークを推進
<http://blog.taiwannews.jp/?p=5459>